

月出川柳の会 第一二九号

令和六年四月二十八日

この季節としては、湿度の高いむしむし暑い午前中の句会になりました。出席者十三名、投句者七名。小学生三名でした。来月の句会は、

五月の句会… 令和六年五月二十六日 午前十時～十一時四十五分 集会所で

題… 「あまい・甘い」甘いと言う言葉を入れなくても、句意が甘ければ結構です。

四月の句会 題「智慧」から、

* 年の功白髪頭の知恵袋

展行

(こうありたいと願うびつたりの上手い句を戴きました。どうも今の政治の世界では、元首相の様なよからぬ知恵袋が幅を利かしているようです。最多共感句になりました。)

* 愚痴半分お茶とのみ込む老いの知恵

伸子

(愚痴を半分で抑えるところが秀逸の知恵。相手に事情を推しはかる余裕を与えます。川柳も結論まで言い過ぎると面白味が失せますものね。読むほどに味わいのある句になりました。)

* 話し合い肩よせ合えば知恵も出る

雅子

(優しい好い句ですね。三人寄ればなどと限定しないで、肩寄せ合えばと言えばそこに自由、平等の雰囲気を感じます。話し合いの本質を上手く川柳で表現して頂きました。右の伸子さんの句と共に共感者多数。)

* 大工さんノミ一本ですごい技

公男

(ノミ一本と簡潔な言葉で、日本古来からの木工技術の凄い知恵を句にして頂きました。今や木工ばかりでなく金継ぎなどの日本の手造りの技が世界で持てはやされていることが話題になりました。やさしい言葉遣いながら奥を感じさせる秀句だと思います。)

* そんな知恵あるなら詐欺に何故使う

千恵

(良いことに使えば世の中が良くなると思う と付記あり。本当に惜しい知恵の使い方です。捕まれば一生を台無しする事になるのに。)

* 難問にウイットに富んだ知恵を出し

貴美子

(難問にウイットの対比がいいですね。作り話でしょうが、西郷隆盛と勝海舟との緊迫した会談の最中に、給仕の女性がブツとおならをしたお陰で無血開城が決まり、江戸の街が戦火を免れたそうです。)

それに引き換え先の戦争では軍部が本土決戦に固執したばかりに、日本の主要都市は壊滅し、おまけに原爆の惨禍まで被りました。ウィットに笑顔は社会の潤滑油。着想が面白い句。(

* 悪知恵で墓穴掘ったイッペイ君

憲郎

(これまで大谷君にびったり寄り添っていたイッペイ君の姿からは、とても信じられないような狡猾な窃盗事件です。盗んだ金額も半端じゃない。マフィアの手口にまんまと乗せられたのでしょうか。どう決着するのかなあ。翔平君もあれこれ言わずに野球に集中する姿は偉い。)

* 脳トレの答えすばやい子供達

和博

(テレビでもクイズや謎解き大流行りですものね。ゲームに至っては手も足も出ません。脳トレになるのかなあ。幼稚園児だった孫に、マリオのゲームでお爺ちゃんは年寄りだから無理しなくてもいいよと慰められました。)

* 先人の言い伝えには知恵袋

遊位子

(私たちが食事の時に何気なく口に行っている「いただきます」は、命戴きますの意味だと教えられたことがあります。この意味からすると、今問題になっているフードロスは、命への大変な冒涇です。)

* スマートホン技術者の知恵のかたまり

桐子

(確かにおっしゃる通りでまさに万能の機器です。句はその報告調の句になりました。惜しい。お釈迦さんでもスマホの知恵に適いまい。)

* 警察を先回りする詐欺の知恵

六郎

(オレオレ詐欺から始まって今は政府が勧める投資に乗った詐欺まで進化中。顔どころか声までそっくりの偽画像が出来るAIの進化には、取り締まりもお手上げです。)

* 負けないよカラスの群れとにらめっこ

隆子

(カラスとの知恵比べ。大迷惑なことをユウモアで詠んで頂きました。これぞ川柳です、俳句では表現できません。)

* 知恵よりも情愛大事人の世は

まさひろ

(頭が切れる知恵者には、おうおうにして冷たい感じのする人がいます。人間ですもの愛情ある思いやりが一番です。それにしても世界中に悪魔のような人殺しが横行しています。自然災害も起こるし、まるで末法の世さながらです。)

* 集まれば悪知恵浮かぶ仲間たち

まゆみ

(きつとかわいい悪知恵でしょう。旦那たちを出し抜いて、一杯呑みに行くとか。)

* 知恵絞りポイント狙いまとめ買い

英代

(ポイントを狙った買い物が主婦の腕の見せ所になって来ました。息子の嫁たちも生活を守るために大いに利用している話をしています。主夫としては何となく無関心ですが、ゆめマートで500円のシートが出るのと何か儲けた気がします。)

* お茶タイム漬け物並び年の功

てるみ

(漬け物は保存食として大昔からの知恵のかたまりです。田舎のお茶のみには自宅で作った漬け物が欠かせませんでした。漬け物だけでは題「知恵」から遠いので、知恵を詰めましょう。「味自慢漬け物並べ茶飲み会」)

* 母習い湯掻く筍糖入れて

せいこ

(母も祖母に習ったのでしよう。先人の知恵に感心 と付記。会でも桐子さんから糖を加えて保存すると話がありました。糖加え竹の子湯掻く祖母の知恵。)

* 知恵なくば人傷つける言葉あり

洋子

(気遣いの知恵を働かせない言動は、いじめ、パワハラですよ。警告の句。)

* 夜空には細い光が夢さそう

郁代

(昼間と違って、夜空に浮かぶ星は夢をさそいます。きれいな情景が浮かぶ句ですが、先月の題「細かい」の句でした。「メルヘンもロマンも星の贈りもの」(噴煙に出した私の句)

* 反抗期悪知恵覚え偉そうに(可愛かったのに、今では小憎らしい。)

貴美子

* 生きる知恵しぼりしぼって卒寿です(まだまだ知恵が詰まっています。)

伸子

* AIは知恵を産まないデータ基地(生成AIは、既出の情報の集まりですものね。)

隆子

* ない知恵もワクワクするとポンと出る(窮余の一策みたいなものですね。)

雅子

* もめ事も三人寄れば文殊かな(文殊の知恵が出ればいいのですが。)

和博

* なるほどです先人の知恵教えられ(老いては子に従え。失敗は成功の基とか。)

遊位子

* 暇潰し知恵の輪遊び活性化(頭の体操とのこと。解けたら気分爽快。)

せいこ

* 外せないたかがオモチャの知恵の輪に(たかがオモチャされどオモチャ。)

展行

* ニュース見る悪知恵動く事件過多(悪知恵の事件ニュースを賑わせる)

てるみ

* 地盤看板悪知恵までも親ゆずり(世間知らずの碌でなし多し。)

憲郎

* 麻雀は知恵はいらぬ運あれば(でもプロの世界は別世界。)

まさひろ

* 知恵出すが良い方向に行かぬまま(天の時、地の利に至っていないのかも。)

まゆみ

* 夫婦にもライバル心みえかくれ (願わくば「智恵があり人もうらやむ夫婦なか」) 洋子

* 春野菜知恵出し絞りごちそうに (少しの苦みが春の味) 英代

* 糞臭う庭くる猫と知恵比べ (猫嫌いの我が家も困っています。) 千恵

* 知恵しぼり家計やりくり半世紀 桐子

(働き方改革で、今や家事も育児も夫婦でやるようになりました。これまでは、家計のやりくりも主婦の役目でした。山之内一豊の妻を思い出させる桐子さんの句を締めに戴きます。)

私の好きな句 (元NHK学園川柳講師 大木俊秀さんの句集から) 紹介

* 女狐が尾を振る満月が上がる

(意味不明ながら、男をだます悪賢い女狐と満月の取り合わせが何となく面白い。)

* コンパスにこの満月は描けまい

* Vネックからまん丸の月が出る

* 大根がおいしいだけで冬が好き

* 魚焼くように焚火も向きを変え

* 春キャベツいかにも春がまるまった

以上

文責

さとう六郎

(電) 096-384-3090